

研究実施のお知らせ

2025 年 5 月 20 日 ver.1.1

研究課題名

びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫における初回治療の違いが及ぼす副作用発現状況や支持療法への影響

研究の対象となる方

2019 年 4 月から 2025 年 4 月の間に島根大学医学部附属病院で R-CHOP 療法または Pola-R-CHP 療法の治療を受けられた方

研究の目的・意義

びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の治療に用いられる二つの治療法、R-CHOP 療法（リツキシマブ＋ビンクリスチン＋ドキソルビシン＋シクロホスファミド＋プレドニゾロン）と Pola-R-CHP 療法（ポラツズマブ ベトチン＋リツキシマブ＋ドキソルビシン＋シクロホスファミド＋プレドニゾロン）について、それぞれの副作用がいつどのように現われるのか、また副作用を予防・軽減するためにどのような薬の使用が適切であるかを比較調査します。この研究により、患者さんの状態に合わせた治療法を選ぶ際の重要な情報が得られる可能性があります。

また、薬剤師による副作用の早期発見や適切な対応の向上が期待され、薬剤師による医師の診察前面談や地域のかかりつけ薬局との連携などを推進することで、患者さんに提供する医療の質を向上させることを目指しています。

研究の方法

病院情報システム（電子カルテ）の記録を用いて、2019 年 4 月から 2025 年 4 月までの期間に島根大学医学部附属病院で R-CHOP 療法または Pola-R-CHP 療法の治療を受けられた患者さんにおける個人情報（年齢、性別、がん種、治療歴等）、二つの治療方法（R-CHOP 療法または Pola-R-CHP 療法）における副作用の発現状況や副作用の予防・軽減のために使用された薬剤の違いについて調査します。

この研究で得られた患者さんの情報は、個人の特定ができない状態で取り扱います。収集した診療情報毎に識別番号を付与し、研究対象者との対応表は収集データとは別に研究責任者が保管します。

なお、収集したデータ（患者さん個別のデータ）は島根大学のみで取り扱います。

本研究に携わるすべての研究者は「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守して研究を実施します。

研究の期間

2025 年 7 月 2 日～2026 年 12 月 31 日まで

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院薬剤部 矢野貴久

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2025 年 9 月 30 日までにお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院薬剤部 矢野貴久

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2465 FAX 0853-20-2475